

Newsletter of Omiya Catholic Church

おおみや教会通信



色とりどりの紫陽花が雨に濡れて鮮やかさを増す季節になりました。

雨の日は憂鬱になることが多いですが、この後の暑い夏を思うと、貴重な雨の恵みに感謝せずにいられません。寒暖の差が激しいこの頃、どなたもお体に気を付けてお過ごしください。



+++++

ふりかえって 「たかはな」 第2号 1972.4.2

三三復活の恵みを感じたい。自分の洗礼の事を思い出すのは当然である。聖土曜日の水で祝福されると、洗礼の時の約束を更新するが、それは信仰の大切な瞬間である。 ※ 同義語で、教会の聖堂に入る時に、聖水入れの中にある水を掛けて入堂することになっている。洗礼の水、新しい生命をめしめす水だから、生きた水をあらわす器物でなければ本当の印にならないと思う。スポンジ付の小さな器物の代りに生きた泉のようなものを、聖堂の入口に置くのは意味がある。 ※ 聖地研究で博士号をとったフランス人神父の思い出でサンデー毎日3月26日号に掲載された神父のこと、他ならぬ私達の指導司祭ジャン・ワレ神父で、聖職にありながら、神よりも？聖地という人間の営みに情熱を燃やしているワレ神父に、私達一同、大いに協力と援助を捧げよう。を祈り。 	大宮カトリック教会 牧会報 たかはな 1972.4.2 第2号 今日こそ、主のつくり給うた日である。 今日を、よろこびとたのしみとのうちに、生きよう。 主を讃美せよ、主は、善なる御者、永遠のあわれみの御者である。 アレルヤ、アレルヤ、われらの過越の羔羊、すなわちキリストは、すでに生けにえとなり給うた。 (詩篇117、24、1、コリント前書、5、7) 復活祭——一年間の最大の祝日。メインポイントが前夜の晩餐である。昼と夜と命の祭り、その時に、水の祝祭が行われると共に、洗礼が授けられる。 水と言うものは、我々の日常生活のために一番必要なものだ。私にはそれに關しまぎびしい体験がある。イタリアとスイスの国境にあるアルプス、ローザ山脈(三千四百メートル)の所で、一日中饑餓なしに過ごしたことがある。お腹がすいたけれど割合に平気だったが、のどがかわくのは長く我慢できなかった。そこで、水の代りに雪をたくさん食べた。本当に水がないと苦しい。 ※ 復活祭の水は生きるための大切なもの。だがそれは聖的な意味での水の事である。我々は水と蜜によって洗礼を受けた。 スローガン 信仰を強め 世の光・地の塩となろう スローガン 水の祭り 主任司祭 ワレジャン
---	---

+++++

<今後の予定>

- 6月15日(日) 初聖体1名(11:00~のミサ)
7月 6日(日) 初聖体6名(14:00~の英語ミサ) ともに祝いましょう!
8月15日(金) 11:00~ 聖母被昇天ミサ

内容【ふりかえって「たかはな」第2号】【今後の予定】

【信徒委員会】【典礼部】4つのキリアーレ【営繕部】草取り【地区部会】感謝の集い
【成人養成部】希望は欺かない【さいたま教区より】【巡礼の原稿募集】
【山口神父寄稿「レオ13世からレオ14世へ」】【サモア~主によばれて(40)】

+++++
<信徒委員会・各部からのお知らせ>
+++++

<典礼部より>

***4つのキリアーレ（「いつくしみの賛歌」「栄光の賛歌」「感謝の賛歌」「平和の賛歌」と主の祈りの曲について**

6月15日以降はミサの中の4つのキリアーレ（「いつくしみの賛歌」「栄光の賛歌」「感謝の賛歌」「平和の賛歌」と主の祈りは中央協議会の「全国版」Bを歌います。

最終的にはABCいずれも歌うことができることを目指します。慣れるまで戸惑うかと思いますが、ご協力をお願いします。

<営繕部より>

5月25日に行った除草作業と台所の床掃除にご協力くださり、ありがとうございました。

<地区部より>

感謝の集いを9月14日に予定しています。詳細は追ってご案内します。

<成人養成部より>

* 教皇フランシスコの聖年の大勅書『希望は欺かない』読書会は、次回の7月13日が最終回となります。今まで各回5～7名の方が集ってくださり、ともに賛美し、ともに祈り、良い分かち合いの時を持つことができました。詳細は成人養成部掲示板をご覧ください。

*** 聖年のロゴにみんなの祈りを貼り付けましょう。**

受付にカラフルな紙を置きました。各自（白っぽい方に）祈りや希望についての言葉を書いて箱にお入れください。見られたくない方は縦に2つに折り、糊で貼りつけても結構です。後日、ロビーにある大きなロゴのポスターに皆様の祈りを小さく丸めて貼り付けます。**帰天された前教皇フランシスコへの祈りや、新しい教皇レオ14世への祈りもご自由にお書きください。**

+++++
<さいたま教区より>
+++++

† カリタスさいたま 青年ボランティアツアー―能登編 参加者募集

対象：高校生～30代（先着6名）

日時：8月18日～21日

行き先：石川県能登地方

応募締め切り：7月15日

詳細は以下のURLから

<https://saitama.catholic.jp/documents/data/2.jpg>

† 広島平和巡礼の旅 参加者募集

対象：中高生

日時：8月4日～8日（4泊5日）

行き先：広島・姫路城など

応募締め切り：7月6日（定員15名に達し次第締め切ります）

詳細は以下のURLから

<https://saitama.catholic.jp/documents/data/3.jpg>



+++++
<巡礼の原稿を募集します>
+++++

今年は聖年－巡礼の年です。以前の聖年に訪れた教会の思い出や、今年訪れた教会の記録、感想等、ご自由にお書きになって投稿してください。（600字まで）手書きの物は受付に、データは以下のメールアドレスに送ってください。お待ちしております。

一階ロビーに、大宮教会の十字架の道行を制作した至門遥さん（本名 北村紘之さん/伊奈町）による制作のエピソード（以前教会誌に掲載した物）のコピーを置きます。ご興味のある方はぜひお読みください。

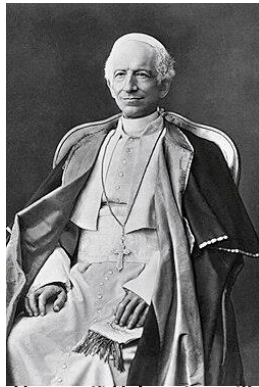
ご自分で原稿を書くことが難しいという方は、広報部員が聞き取りをして、代わりに原稿を書きます。ご希望の方は、気軽にお申し付けください。

槻田

レオ13世からレオ14世へ

主任司祭 フランシスコ 山口 一彦

1985年に公開された『法王の旅』というアメリカ映画があります（日本では以前、パパ様のことを「法王」と訳していましたので、このような標題になっています）。簡単なあらすじは、こうです……バチカン宮殿での堅苦しい生活に嫌気がさした教皇は、ある日、監視の目をくぐり抜けて脱出し、身分を隠したまま、庶民の暮らしの仲間入りをする。やがてイタリアの片田舎の寒村に行き、貧困に苦しみ荒んだ生活を送る村人の心を救う。さらに、その土地の教会も再建する。こうして人々の心を開いていくうちに、教皇自身も天から与えられている自らの使命を見出していく……というヒューマン・コメディの傑作です。なんだか、諸国を旅しながら悪者を退治していく水戸黄門様みたいですよね。もちろん、フィクションです。バチカン宮殿から抜け出して旅をした教皇様なんて、いる訳ないですもんね。でも、テレビドラマ水戸黄門に徳川光圀という実在のモデルがいたように、この映画の教皇様にも、モデルになった実在の教皇様がいます。それがレオ13世です。教皇在位は1878年から1903年です。百数十年前の方ですね。



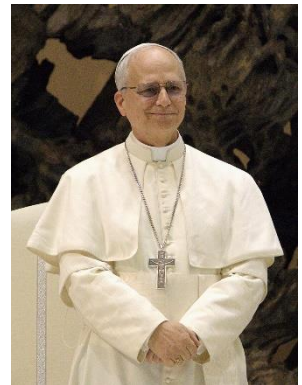
第256代教皇レオ13世

レオ13世の前任は、ピオ9世という教皇様でした。この方は、産業革命から続く社会の近代化と科学思想への傾倒を、全面的に否定しました。そうすることで、聖なる教会を世俗化から守ろうとしたんですね。でもその結果、一般社会とカトリック教会との間に、大きな隔たりと対立が生まれてしまいました。そのあとを引き継いだレオ13世は、信仰と科学、教会と一般社会との共存を訴えました。特に有名な業績は、『レールム・ノヴァールム』（ラテン語。日本語では「新しき事柄について」）という回勅を發表したことです。産業革命によって生じた労働問題を扱ったものです。労働者の人権を擁護し、搾取と行き過ぎた資本主義に警告を発しながら、その一方では、当時台頭しつつあった共産主義を厳しく批判しています。それまで回勅というのは、信徒が教会内で回し読みするもの、つまり教会内部に向けて書かれた文書でしたが、この回勅によって、カトリック教会は一般社会が抱える社会問題にも積極的に関わっていくと

いうことを、初めて表明しました。そこでこの回勅は、カトリックの「社会教説」（様々な社会問題を取り上げ、信仰と教義に照らしながら、その問題をどう捉え、解決に向かってどのように取り組むべきかを示した文書群）をスタートさせたものとして高く評価されています。このような功績を讃え、尊敬と親しみを込めて、前述の映画『法王の旅』が作られたんでしょうね。

世界の政治・経済・環境などの問題に対して積極的に発言を続けたフランシスコ教皇様が天に召されたあと、その反動として保守的で内向的な方が次の教皇に選ばれるのではないかと、いう憶測が世界中を飛び交いました。しかし、コンクラーベで選ばれた方は、本命どころか対抗馬でも大穴でもなかったアメリカ人、ロバート・フランシス・ブレヴォスト枢機卿様でした。聖霊の風が吹いた、としか言いようがありません。彼は教皇名をレオ14世としました。もう、お分かりですよね。新教皇様は、「レオ13世から始まりフランシスコ教皇様まで続いてきた近代現代の教皇様たちの遺志を、そのまま受け継ぐ」と、教皇名によって宣言したのでしょう。

ややもすると私たちは、教会での信仰生活と、学校、職場、そして家庭での日常生活とを、切り離して考えてしまう傾向があります。「聖」と「俗」とを別々に考えてしまう訳です。でも教会は社会の中にあって、内側から「聖」なる生き方と考え方を広めるべきでしょう。教皇様がただ一人で頑張っても、社会は変わりません。教皇様はバチカンから全世界に向けて、社会が進むべき方向を示されます。私たちはその思いをくみとって最前線に立つよう、イエス様から命じられています。主日ミサのたびに、御言葉とご聖体で浄められ、力づけられて、派遣されます。そして、亡くなる前日まで働き続けたフランシスコ教皇様のように、生涯にわたってイエス様の弟子としての使命を果たしていくのです。私たち一人ひとりの生き方が、少しずつこの社会を聖化します。私たちの使命は、なんと素晴らしいことでしょう。



第267代教皇レオ14世

✠ サモア～主に呼ばれて (40) ✠

大型サイクロンの関係で私も大変でしたが、私を空港まで迎えに来てくれた佳美も大変でした。到着予定の日成田空港まで迎えに来てくれたのですが、飛行機が到着してしばらくしても、ぜんぜん到着ターミナルに出てこないで、かなり不安になったようです。空港のカウンターで聞いたところ、サモアからニュージーランドに飛ぶ飛行機が、サイクロンの関係で飛んでいないということが分かり、仕方なく帰宅したそうです。

こちら連絡は取りたかったのですが、町まで行かないと電話もできず、なかなか連絡が取れませんでした。町まで行けるようになって、飛行機の予約を取り直したところで、電話しました。

最初の予定から1週間遅れで12月14日に日本に戻りました。結婚式までは、8日しかありません。やるが多すぎて、毎日忙しい日が続きました。

結婚式は浦和教会ですることになっていました。当時は、主任司祭が不在で、朝霞教会の犬養神父様が兼任していたので、朝霞までご挨拶に行きました。厳しい方で、教会維持費を払わないと結婚式をさせないと言われました。お会いして数万円払って、結婚式を認めていただきました。

結婚式の司式は、私が洗礼を授けていただいたローランド神父様にお願いしました。浦和教会の主任司祭から、パリミッションの日本管区長になっていたのも、護国寺の近くにあるパリミッションの本部にいらっしゃいました。結婚式の予行もあったので、その時にご挨拶すればよいと思い、式の前には本部にはお邪魔しませんでした。

その間に結婚式に参加してくれることになっていた、オーストラリアのホストファミリーが日本に来るのを迎えに行ったり、式の時にオルガンを弾いてくれることになっていた職場の同僚が、心配だからオルガンを弾いてみたいというので、浦和教会に連れて行ったりと、やらなければならないことが目白押しでした。予行は、ローランド神父様、オルガニスト、立会人で行いました。立会人は、わざわざオーストラリアから来てくれたホストファミリーにお願いしました。

結婚式は12月22日に浦和教会で行いました。この日は日曜日でしたが、午後から行うことができました。当日は私と佳美の教え子も参加し

てくれました。また、パースにいたときにホームステイしていたご夫妻が、少し前の9月から神奈川県で英語を教えるために来日していたので、お誘いしたところ参列してくださいました。

英語を個別レッスンで教えてくれていたメリノール会のアメリカ人のブラザー、司式の神父様はフランス人と国際色豊かな結婚式でした。特に、立会人をお願いしたご主人は、スコットランドの正装であるキルトを着て、式に参列してくださいました。立会人をするということでわざわざオーストラリアから持参してくれたようです。当時は明大前にJLMMの研修所があり、そこに泊まっていたので、そこから電車に乗って、その服装で来るとかなり周りの人に驚かれたのではないかと思います。お嬢さんにはブライドメイドとして、佳美のベールをもってもらいました。

結婚式が終わって、佳美が冬休みに入ってから新婚旅行に行きました。さすがに海外に行く気にはならず、温泉に入りたいと思って、伊豆を旅行しました。川端康成が伊豆の踊子を書いたという湯ヶ島温泉の湯本館に泊まったり、ペンションに泊まったりとのんびりしてきました。

東京に戻り、年末にはホストファミリーとドイツニュージーランドに行きました。オーストラリアにはないので、楽しみにしていたようです。正月は佳美の叔母の家にその家族も含めて招待されたので、連れて行きました。その時に佳美のいとこで当時高校生の女の子が、オーストラリアに行きたい、ホームステイさせてほしいと言いつつ、急にその春に行くことが決まりました。ほとんど何も情報がないのに、行こうと思う決断力はすごいなと思いました。

私のみならず、佳美のいともお世話になりました。息子の洋平も大学生の時にいるので、家族ぐるみのお付き合いになりました。ただ、5年前にアルバーニーに家族で出かけたときには、行く直前になってメールで、「私はスコットランドにいる。私の家は、あなたの家。自由に使ってください」と伝えられました。もう予定は変更できなかったのも、家主不在の家に2泊ほど泊めてもらいました。カギは、メールに隠し場所が書いてあったので、無事に泊まることができました。

見沼区 齊藤

✿ おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.org>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿(本などの感想、特集してほしいことなど)を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 7月号は7/20発行予定、原稿締め切り7/6

